小山市事務事業評価シート

令和3年度版

No.	3

1. 基本情報

<1> 事業・業務名	平和都市宣言事業	<2> 事業・業務の別	事 業
<3> 選定基準	② 事業の範囲や経費等について、市の裁量の余地がある事業	<4> 継続業務・新規業務の別	新規業務
<5> 総合計画基本計画での体系 大項目	1 協働によるまちづくりと 誰もが活躍できる社会・ひとづくり	<6> 担当部(局)	総務部
中項目	1-3 互いに思いやり認め合う地域社会	<7> 担当所属	行政総務課
小項目	1-3-1 恒久平和	<8> 担当係等	行政総務係
施 策	平和に関する催事の開催、平和基金の活用、次世代を担う若者の平和事業への派遣		
<9>根拠法令・計画等	小山市平和基金条例・小山市平和基金管理要綱	<10>関連・類似事業	
<11> 会 計	一般 会計	<12>予算科目	2 款 1 項 1 目
<13>実施期間	年度 ～ 年度	<14>全体事業費	千円
<15>実施手法	直営	「その他」の場合	( )

2. Do － 実施 －

<16> 事業・業務の概要	平和都市宣言事業として、平和展・巡回平和展の開催、広島平和記念式典中学生派遣、平和ポスター募集、平和基金の募金活動及び運営を行う。
目的 <17>事業・業務の目的	平成4年7月1日の平和都市宣言表明の下、市民一人ひとりが戦争の悲惨さや平和の尊さを再認識し、戦争や原爆の傷跡を風化させることなく、次世代に引き継ぐこと。
目的 <18>事業・業務の対象	戦争を経験していない市民（特に次代を担う若い世代）
手段 <19>令和2年度の活動内容	①広島や長崎の原爆写真や被爆資料などの展示する平和展・巡回平和展の開催。 ②広島平和記念式典への市内中学校２年生及び義務教育学校８年生の派遣 ③児童生徒を対象に平和ポスターの募集※①～③はR2年度は新型コロナウイルス感染症により中止 ④平和基金の募金活動や、基金を活用した小・中・義務教育学校への平和啓発図書の配布

手段 <20>活動指標（活動した量や実績）

指 標 名	単位	令和元年度 計 画	令和元年度 実 績	令和2年度 計 画	令和2年度 実 績	令和3年度 計 画	令和4年度 計 画
平和展等開催施設数	箇所	13	13	13	0	13	13
生徒派遣人数	人数	28	28	28	0	28	28

成果 <21>事業・業務の成果	平和事業の推進をし、市民一人ひとりが戦争の悲惨さや平和の尊さを再認識する契機とし、市民の平和意識の高揚を図る

成果 <22>成果指標（活動の成果の量や実績）

指 標 名	単位	令和元年度 計 画	令和元年度 実 績	令和2年度 計 画	令和2年度 実 績	令和3年度 計 画	令和4年度 計 画
平和展入場者数	人	1,000	786	1,000	0	1,000	1,000
HPアクセス数	件	1,200	1,072	1,200	253	1,200	1,200

資源 <23>投入指標（投入するお金の量）

コ ス ト実績	単位	令和元年度 計画(予算)	令和元年度 実績(決算)	令和2年度 計画(予算)	令和2年度 実績(決算)	令和3年度 計画(予算)	令和4年度 計画(予算)
	千円	6,517	6,313	6,502	2,499	6,004	6,116
事業費等	千円	3,673	3,469	3,649	1,072	3,151	3,263
財源内訳 国・県補助金	千円						
財源内訳 地 方 債	千円						
財源内訳 そ の 他	千円	100	100	100	800	100	100
財源内訳 一般財源	千円	3,573	3,369	3,549	272	3,051	3,163
人 件 費	千円	2,844	2,844	2,853	1,427	2,853	2,853
正 職 員	千円 × 人役	7,108 × 0.4	7,108 × 0.4	7,132 × 0.4	7,132 × 0.2	7,132 × 0.4	7,132 × 0.4
他の職員	千円 × 人役	×	×	×	×	×	×

3. Check － 評価 －

実績評価 妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か？	1.妥当である
妥当性	<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か？	1.妥当である
妥当性	<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか？	2.変わらずにある
妥当性	<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か？	1.妥当である
有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか？	1.向上の余地はある
有効性	<29> 総合計画基本計画施策への貢献度は大きいか？	1.大きい
効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか？	2.向上の余地はない
効率性	<31> 民間への外部化(民営化・業務委託等)は可能か？	2.検討は困難である
公平性	<32> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか？	4.該当しない

<33> 総合評価	3.改善の余地はない（現状維持が適している）	理由	平和展・巡回平和展開催、広島平和記念式典中学生派遣、平和ポスターの募集、平和図書の配布などの事業を通じて、市民一人ひとりに戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを再認識する機会を提供し、平和の尊さや大切さに対する認識を広めていくことができた。

4. Action － 改善 －

事業の改善 <34> 事業の課題 事業の改善点	戦争を体験した世代や、戦争体験を語る方が高齢化で減少しているため、若い世代への継承や、戦争の記憶をどのように伝えていくかが課題である。広島平和記念館のホームページには被ばく体験者の講話録画データが公開されていることから、小山市ホームページから閲覧できるようにリンクを設定し、各市内小中・義務教育学校に対し児童生徒が閲覧していただくよう周知を行った。

5 Plan － 計画 －

事業の方向性 <35> 1次評価	所属長	3.現状維持	理由	市民に戦争の悲惨さや平和の尊さを認識いただく機会を提供するため、引き続き、各出張所や大型ショッピングセンターで平和展等を開催し事業を実施する必要があると考える。啓発の手法についてはコロナ禍の影響も鑑み、インターネットなど直接会場へ出向かずとも実施できるものを検討する必要もあると考える。
<36> 2次評価	所管部長	3.現状維持	理由	平和の尊さを認識するうえで、戦争を知らない世代への戦争の悲惨さの啓発は重要であることから、広島平和記念式典中学生派遣、平和ポスター募集、平和基金の募金活動等をはじめ、時代に応じた取り組みの継続が重要である。

事業の計画 <37>実施計画・今後の方針	市民一人ひとりが戦争の悲惨さや平和の尊さを認識し、戦争や原爆の傷跡を風化させることなく次世代に引き継ぐためには、一人でも多くの市民への共感が必要であることから、インターネットやＳＮＳなどの情報媒体を積極的に活用するなど、より効果的に訴求できる啓発活動の仕組みの構築を検討する。
<38>活動・成果目標	戦後・被爆75年という節目の年が過ぎ、戦争体験者や被爆者の高齢化が進み「平和を愛する心」を語り継ぐことが難しくなっていることから、次の世代に引き継ぐためにも、広島平和記念式典中学生派遣団をはじめ、平和展や平和ポスターコンクール、平和啓発図書の配布など、児童生徒を対象とした事業を中心に実施する。また、広く啓発活動を行い、多くの市民に平和についての認識と理解を深めていただく。